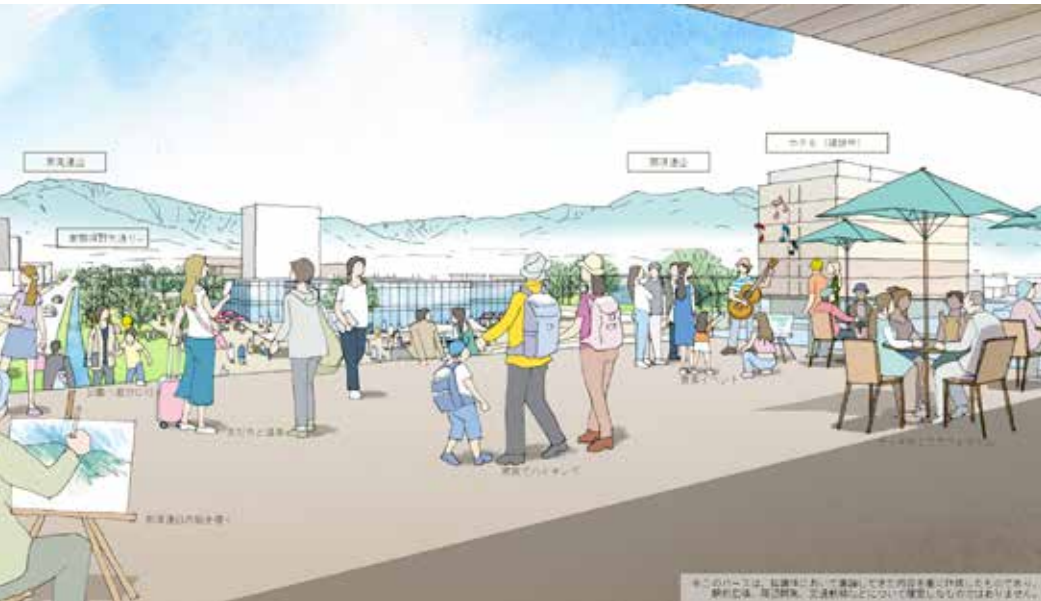




▲駅前広場の空間イメージ

駅前広場に設置された眺望デッキから山並みをのぞむ光景。
～昨年7月に取りまとめられた「那須塩原駅周辺まちづくり協議体レポート」に掲載～



取り組みの流れ

基本計画など

駅前の将来像とまちづくりの進め方や空間再編の考え方を共有

社会実験

さまざまな形で将来的な空間を再現し、使い勝手や必要な機能などを情報収集

設計・整備に反映

社会実験の結果などを踏まえて、駅前広場などの空間を整備



▲基本計画の内容はこちら

いくなり完成形として整備するのではなく、実際の空間を試験的に使いながら、交通への影響や皆さんの声、必要な設備、使われ方を確認し、段階的に検討を進めていきます。

〈段階的な検討〉

車両動線、歩行者動線、待合、休憩、地域の魅力発信などの役割を整理しながら、単なる通過点ではなく賑わいや憩いが生まれる場所にします。

〈「那須塩原らしさ」を感じる空間〉

基本計画では、交通の要である駅前広場と主要な道路である市道東那須野大通り線の空間を一体的に捉え直し、全ての人が心地よく過ごせる空間づくりを目指しています。

基本計画を元に段階的に検討

目指すのは、安全で、分かりやすく、過ごしやすい駅前
～那須塩原駅周辺まちづくり基本計画を策定～

市は、今年3月に「那須塩原駅周辺まちづくり基本計画」を策定しました。
この計画では、駅前広場や市道東那須野大通り線などの空間を、交通の利便性を確保しながら、誰もが安全で心地よく過ごせる場所へと生まれ変わらせることを目指しています。

今後の本格的な整備に向けて、「社会実験」として、将来的な空間を試行的に再現し、実際の使いやすさや必要な機能などの情報収集を行ってきました。



駅前広場の現状と問題点

送迎、バス、タクシー、歩行者。多くの動きが交錯し、安全面や快適性が課題。

背景と現状の課題

〈那須塩原駅西口の現状〉

通勤・通学や新幹線の発着時間帯（朝夕）には、送迎車の乗降、バス、タクシーの利用、駅を利用する歩行者、自転車などの動きが集中し、混雑や交錯が発生しています。

〈空間の限界〉

駅前広場は、駅を利用する人にとって「最初に通る場所」であり、「最後に待つ場所」ですが、様々な動きが集中してしまうため、駅前広場だけでは「送迎」「待合」「休憩」といったすべての機能を受け止めるには限界があります。

見直しの目的

那須塩原駅前を誰にとっても「分かりやすく、安全で、使いやすい空間」にするため、駅前広場だけでなく「市道東那須野大通り線」を含めた駅前エリア全体の交通動線と役割を見直すことが必要だと考えます。

駅前広場の主な課題

1. 送迎車両が特定の時間に集中しやすい
2. 歩行者と車両の動きが入り組んでいる
3. 初めて訪れる人に動線が分かりにくい
4. 待つ・休むための場所が少ない

社会実験

〈機能の実証〉

車の動き、歩行者の動き、送迎の動き、公共交通の動きがどのように重なっているのかを整理し、「安全に歩き、待ち、休み、過ごせる空間」にするため、交通機能の検証・実験を行います。

〈役割分担の推進〉

社会実験では、駅前広場に集中している機能の一部を周辺道路や歩道へ分散・再配置することで、駅前全体をより分かりやすく、利用しやすい空間にできるかを確認します。



▲駅前広場の社会実験「よってく？駅前広場」

誰もが心地よく過ごせる駅前空間

昨年度は、駅前広場にイスやテーブルを設置し、「立ち寄る」「休む」「過ごす」などの使い方を試す社会実験を行いました。

この社会実験を通じて、これまでの「通行や送迎のためだけの場所」である駅前広場が、「人が立ち寄り、憩う場所」になる可能性があることが見えてきました。

一方で、駅前をより安全で使いやすく、魅力ある空間にしていきたいためには、駅前広場だけでなく、周辺道路や歩行者動線と一体的に考える必要性も見えてきました。

特集 駅前を、もっと安全で使いやすく
～那須塩原駅前の未来を創る社会実験を実施～

問い合わせ

那須塩原駅周辺準備室

☎0287(73)5175